

## 2. 火山の概況 (平成 15 年 8 月 21 日 ~ 平成 15 年 8 月 27 日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発であった。薩摩硫黄島、諏訪之瀬島では連続的な微動が発生した。

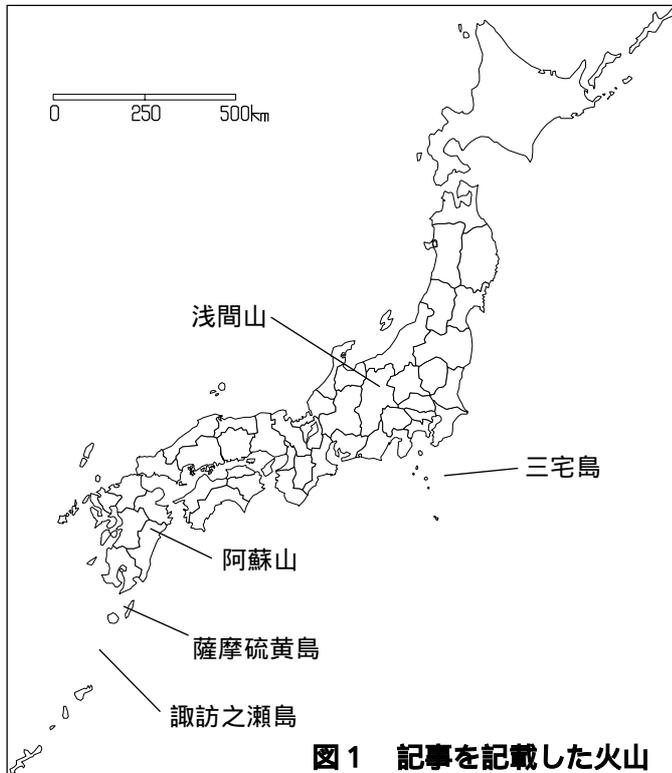


図 1 記事を記載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山	富士山	三宅島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
35	8/21- 8/27							
34	8/14- 8/20							
33	8/ 7- 8/13							
32	7/31- 8/ 6							
31	7/24- 7/30							

### 注 1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

### 浅間山 [地震・微動・熱]

6 月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間もやや多い状態が継続しており、1 日当たり 42~79 回観測された。また、振幅の小さい微動は 2 回観測された。

群馬県林務部設置の赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測された。

### 三宅島 [火山ガス・噴煙・地震]

25 日に気象庁が行った火山ガス観測<sup>1)</sup>では、二酸化硫黄の放出量は日量 4,800~7,000 トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図 2)。また、同時に気象庁と大学合同観測班が行った上空からの観測<sup>1)</sup>では、火山ガスを含む青白い噴煙が北東側山麓を流下していた。火口内の状況等は雲による視界不良のため観測できなかった。

振幅の小さいやや低周波の地震は、22 日 05 時台に 14 回と一時的にまとまって発生したが、その他の期間は 1 日当たり 15~28 回と落ち着いた状態で推移した。

GPS による地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は収まっている。

1) 陸上自衛隊の協力による

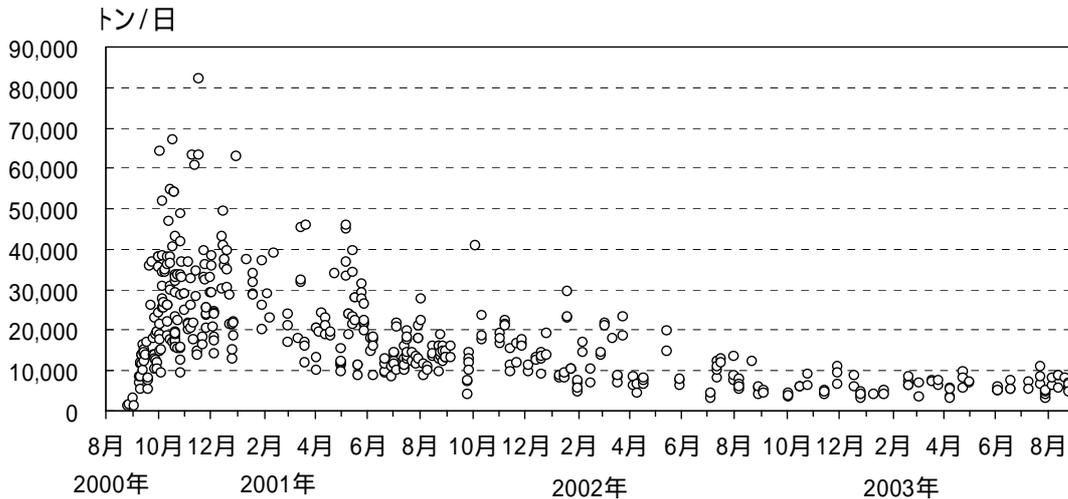


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移 (2000年8月26日 ~ 2003年8月25日)

**阿蘇山 [熱・微動・地震]**

中岳第一火口内の状況は、阿蘇火山博物館設置の火口カメラによると、湯だまりの色は乳緑色で、湯量は9割程度であった。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、最高高度は火口縁上 300mであった。連続的な微動は発生しなかった。孤立型微動の日回数は 18 ~ 53 回、合計は 237 回 (前期間は 388 回) であった。

微小な B 型地震が 24 日にやや多くなり、期間中の合計は 78 回であった (前期間 77 回)。

A 型地震の発生状況、地殻変動等その他の観測データには異常な変化は観測されなかった。

**薩摩硫黄島 [微動・噴煙]**

前期間の 16 日 00 時 50 分から微動が連続的に発生しており (28 日 24 時現在継続中)、火山活動はやや活発な状態で推移している。

監視カメラによる観測では、噴煙は白色中量で最高高度は火口縁上 800m であった。

**諏訪之瀬島 [微動・地震]**

前期間の 19 日 07 時から始まった連続的な微動は 21 日 21 時まで継続した。また、継続時間の短い微動はたびたび発生し、合計は 157 回であった (前期間は 2 回)。

地震回数はやや多くなり、合計は 119 回であった (前期間は 14 回)。

監視カメラによる観測では、噴煙は白色少量で最高高度は火口縁上 300m であった。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第 462 号 (1日2回発表)	21日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	火山観測情報第 475 号	27日 16:30	